

消える、現れる、変身する!妖怪影絵誕生!!

妖怪
影絵劇

下下々の鬼太郎

鬼太郎たちの妖怪世界は、
私たちに忘れかけていた
大事なことを教えてくれます。



鬼太郎の
影絵劇

2016年
10月22日(土)

14:00開演(13:30開場)

愛荘町立
ハーティーセンター秦荘
大ホール
TEL.0749-37-4110

Produced by
劇団影法師

7月18日(祝)発売 全席指定

入場料(各税込) / 【前売券】
一般1,300円、18歳以下800円、親子ペアチケット2,000円

※当日は各200円増、※3歳以下のお子様は無料、ただしお席が必要な場合は有料
※ハーティーセンター秦荘のみ、電話での予約を受け付けます。但し割引券利用不可

プレイ
ガイド

ハーティーセンター秦荘、愛知川公民館、るーぶる愛知川(愛知川駅)、
ひこね市文化プラザチケットセンター、みずほ文化センター、八日市文化芸術会館、
彦根・東近江地域勤労者互助会(会員のみ)、しがぎん経済文化センター(会員のみ)

主催/一般社団法人 愛荘町文化協会(ハーティーセンター秦荘指定管理者) 後援/滋賀県、滋賀県教育委員会、愛荘町、愛荘町教育委員会



原作:水木しげる
協力:水木プロダクション
©水木プロダクション

※10月17日
わりびきけん
おやこペア
100円引
(前売のみ有効)

変幻自在の妖怪たちが、「本当に大切なもの」を語りかける!

妖怪影絵劇 **ゲゲゲの鬼太郎** ~あらすじ~

怪しげなおじさんに、骨董屋に鏡を持って行くように言われたユウト。初めて行く古道具店の中にあるいろいろなものに興味津々だが、そんな中、店の隅に座っている古い人形と目が合います。ユウトは、人形となにやら話をはじめますが、持って来た鏡が突然光を放ち一瞬にして、ユウトは鏡に吸い込まれ不思議な空間に投げ出されます。そこで、出会う不思議な妖怪たちの魅力に引き込まれていくユウト。しかし、妖怪たちが欲しがっているのは人間の心。魂(心)を狙われているユウトを助けようと鬼太郎と仲間たちが立ち上がります。自分も妖怪族の一員である鬼太郎が、なぜ人間たちの味方をするのか?ユウト(人間)と鬼太郎(妖怪)の心に何かが芽生え始めます。



妖怪影絵の魅力

動物の皮を使った影絵劇は、その表現の豊かさ、面白さからアジアを中心に広く世界に伝わっています。2011年ユネスコ世界無形文化遺産に登録された中国の皮影戯(ピーインシー)が、その起源ともいわれています。今回この妖怪影絵「ゲゲゲの鬼太郎」の舞台では、この技法を高めた独特の影絵世界を作り上げています。

美しい色彩

皮影戯に使用される人形は、牛皮に細かく彫刻し、多彩な色を施した芸術的で美しい人形です。この人形を使った影絵は、従来の黒い影ではなく、息をのむような美しい色のついたカラーの影絵になります。



変幻自在

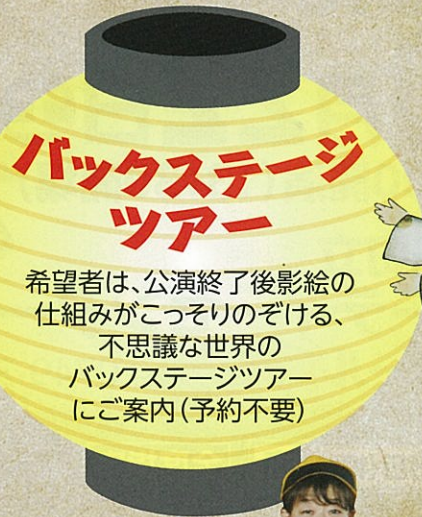
スクリーンに直接照明の光を照射し、人形を透かす技術や竹の棒による独特の操作方法は、上、下、右、左と、大型スクリーンの全面を動き回ることが可能で、消えたり、現れたり、変身したり、大きくも小さくもなれる。日本にはない技法がまさに変幻自在な演技を可能にします。

生きているような動き

素材に皮を使うことによって、丈夫で目つ柔軟な表現が可能な人形ですが、人形の首、肩、肘、手首、股関節、膝、足首などを細部にいたるまで、自在に動かすことが出来る仕組みのため、その表現力の豊かさや動きの繊細さは、まるで生きているかのような演技となって、観客を魅了します。

制作にあたり

下駄の音とともにやってくる鬼太郎。日本じゅうの悪い妖怪たちから人間を守ってくれている。ただ本当に悪いのは、妖怪なのだろうか?妖怪とは何? 答えの出ない事を考えさせてくれるのが、漫画「ゲゲゲの鬼太郎」の魅力でもあります。この影絵劇では、妖怪とは人間の心。妖怪の世界とは目には見えない人間の心世界。こどもたちに、それが身近にある世界であることを感じてもらい、やさしさやおそれ(畏怖)、妖怪たちが語りかける目には見えない“本当にたいせつなもの”を感じて頂ければと思います。もちろん、おなじみの妖怪キャラクターたちが、スクリーンせましと大活躍する楽しいお芝居です。妖怪影絵ワールドに、どうぞご期待ください。



希望者は、公演終了後影絵の仕組みがこっそりのぞける、不思議な世界のバックステージツアーにご案内(予約不要)



愛荘町立 **ハートィーセンター秦荘** はた しょう

〒529-1234 滋賀県愛知郡愛荘町安孫子822番地
TEL.0749-37-4110 / FAX.0749-37-4113
E-mail:info@heartycycenter.jp
〈月曜日休館〉

